

【 30 】

氏名	早 田 幸 司
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1548 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和60年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	Rapid and Simultaneous Measurement of Sex Steroid Hormones and It's Application to The Monitoring of Gonadotropin Therapy 性ステロイドホルモン迅速同時測定法の開発と、その臨床応用 (特に、Gonadotropin 療法モニタリングへの応用)
論 文 審 査 委 員	教授 産賀敏彦 教授 佐伯清美 教授 太田善介

学位論文内容の要旨

高速液体クロマトグラフに電気化学検出器（設定加電圧+1.0Vvs.Ag/AgCl）および紫外線検出器（設定波長 242nm）の 2 つの検出器を組み合わせ、前者により血清中の estradiol, estrone を、後者により、testosterone, 17 α -hydroxyprogesterone, progesterone を一斉分析する測定法を開発した。

頸管粘液を指標として HCG への切り替えを行なった HMG-HCG 療法施行例39周期を対象に、本測定法によるモニタリングの有用性について retrospective に検討した。本測定法による血清中性ステロイドホルモン測定は、卵胞成熟の評価（排卵目的では estradiol 値400pg/ml以上、妊娠目的では estradiol 値800pg/ml以上で HCG への切り替えが望ましい）、卵巢過剰刺激症候群発症の予測（HCG 切り替え後 7 日目の progesterone 値30ng/ml以上）、妊娠の早期診断（HCG 切り替え後 7 日目より14日目の progesterone の非減少傾向）に有用と思われた。

本測定法は、随時、約 2 時間で 5 種の血清中性ステロイドホルモンの一斉分析が可能で、卵巢機能や胎盤機能のモニタリングに極めて有用だと考えられる。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究は産科領域における性ホルモンの定量法とその臨床的応用に関する研究であるが、各種ステロイドホルモンの迅速鋭敏な同時定量法を確立し、卵巢および胎盤機能の判定に有用であることを明らかにした価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。